

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 花き

発行日 平成23年 8月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

- 共通 病虫害防除を徹底し、良品の出荷に努めましょう
- りんどう 収穫後、翌年に向けた管理を徹底しましょう
- 小ぎく 健全な親株を確保・養成しましょう
- 施設花き 施設の風通しなどの環境管理に注意しましょう

## りんどう

### 1 生育概況

盆需要期の出荷は県南部で概ね良好に出荷されましたが、山間地、県北部で出遅れ、県全体としては需要期後半になり昨年を上回る出荷量となりました。7月中旬の高温、その後の低温や水不足が影響したと考えられます。晩生種は平年並みの生育となっている。

病虫害では乾燥の影響によりハダニ類の発生が増加し、8月上旬以降はオオタバコガの被害が確認されています。リンドウホソハマキも含めて今後も継続した防除が必要となります。

### 2 病虫害防除の徹底

#### (1) ハダニ類

局地的な降雨はあったものの全般的に乾燥傾向であったため昨年以上にハダニ類の発生が増加しています。気温の低下に伴い発生は減少しますが、9月中旬頃には越冬成虫が現れはじめ防除効果が低下する（農薬が効きにくくなる）ため、9月上旬までにハダニの密度を下げるように防除を徹底します。葉裏へ十分薬剤が付着するように薬剤散布を行います。

#### (2) オオタバコガ

キク類での被害が最も多いと思われませんが、りんどうでも被害が確認されています。オオタバコガに効果のある薬剤を選定して防除してください。

#### (3) アザミウマ類

収穫後の残花で増え、多発します。蕾が着色する頃から寄生して花の内部で増殖するので、その時期から防除を徹底し、収穫後の残花の着いた茎部分を折り取ります。圃場周辺の作物や雑草の防除も併せて実施します。

#### (4) 葉枯病

本年の発生は少なめですが、一部上位葉での発生が見られ始めています。秋期にも拡大する可能性があるため、今後収穫する品種と併せ、収穫終了した品種も防除を継続します。

#### (5) 褐斑病

8月以降発生が増加します。本年の6～7月の感染時期の降雨により防除が徹底されなかった圃場での発生が見られます。葉の濡れが数日続くことで感染します。有効な薬剤を株内部に散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分し、拡大防止に努めてください。

#### (6) 花腐菌核病

菌核にできた子実体（きのこ）から孢子が飛散し、花卉に付着して感染しますが気温の低下に伴い、冷涼地から孢子の飛散が始まります。

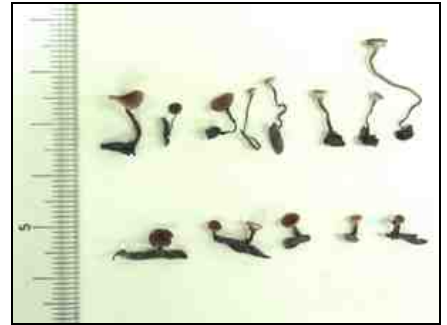
本年は夏の間にも低温の期間がありましたので、昨年より早い発生が予想されます。各地域での着蕾状況を確認して防除情報を参考に適用薬剤での防除を開始してください。



花腐菌核病被害花



株元に形成された子実体



菌核上に形成された子実体

### 3 収穫後の管理

- (1) 追肥：早生・中生種で、生育の状況により、収穫後に窒素成分で3～5kg（10aあたり）を施用し、株養成に努めます。
- (2) 収穫後の圃場では防除が手薄になり病害虫が多発する場合があります。翌年の発生源となるので、収穫後も防除を継続してください。収穫後の薬剤は葉の汚れへの配慮は不要なのでコスト低減も考慮して選定してください。
- (3) 害虫や花腐菌核病の防除のため、残花のある茎部分を折り取ってください。この作業は株養成のためにも効果的です。また、定植年の株でも開花しますので、できるだけ花を摘み取ります。

## 小ぎく

### 1 生育概況

盆需要期の出荷は若干遅れましたが順調に増加し概ね潤沢に出荷されました。

病害虫では昨年問題となったオオタバコガはフェロモントラップでの捕殺数が増加傾向にあります。本年は薬剤の選定や防除適期の徹底により抑えられており、大きな被害発生には至っていませんが今後も要注意です。

### 2 圃場管理

キクの根は過湿に弱く、多湿条件下では生育障害が発生します。降雨が続くような場合、長時間圃場に滞水しないよう排水対策を行ってください。逆に乾燥している場合、品質低下や蕾の発達が遅れる原因となりますので適宜かん水を実施します。ただし、長時間水を溜めることや高温時のかん水は避けてください。

### 3 病害虫対策

#### (1) オオタバコガ

昨年と同様に高温気象の影響により増加傾向にあります。今後の気象によっては9月の防除が重要となりますので、これまでどおり防除の徹底を図ってください。

#### (2) 白さび病

白さび病は気温15～23℃、多湿条件で感染しやすくなります。定期散布に加え、降雨前に薬剤散布し防除を徹底しましょう。また、ハダニ類等の害虫の発生が見られるので、十分な薬量を葉裏に散布し防除を徹底します。

### 4 母株選抜・養成

翌年採穂用の母株は、収穫前の選抜を徹底します。特に、えそ病やわい化病の感染株は見つけしだい株ごと抜き取り、圃場に残さないようにしてください。また、下葉からの枯れ上がりが見られる株は、根の張りや圃場の状態によるものの他に、土壤病害によるものも見られ、その場合は、翌

年の苗にすることで感染が広がることも考えられるので、枯れ上がりの見られる株は極力母株への使用はさけます。

残した株は病害虫防除を継続し、茎葉が伸びた場合は適宜台刈りを行います。またマルチ栽培の場合には収穫後すぐにマルチをはがし追肥と土寄せを行います。

## 施設花き

### 1 全般

保温にともなう施設の開閉をおこなうこれからの時期は、天気予報を確認して施設内が高温にならないように開閉して換気に努めます。また、循環扇なども活用して灰色かび病等を予防します。

### 2 ストック

#### (1) かん水

活着後は2～3日おきにたっぷりかん水します。最初に根を深く張らせることで後半にかん水を控えても萎れないようになり、品質確保につながります。過剰なかん水は立ち枯れ性病害の発生を助長するので、適量かん水を心がけます。

#### (2) 遮光

活着後は速やかに遮光資材を除去し、十分な日照を確保します。

#### (3) 温度管理

ハウスは開放し、気温が上がらないような管理とし、高温による生理障害や品質低下の発生を防ぎます。

#### (4) コナガ防除

殺虫剤による防除をしますが、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の薬剤をローテーションで使用します。ハウスの開口部を防虫ネット（目合いが1mm以下のもの）でふさぐことも効果的ですが、通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、注意します。

### 3 トルコギキョウ

(1) 高温により一斉に開花が進みましたが、今後も高温、強日照が続く場合には、適宜、遮光して生育を抑えます。また、葉焼け等品質の低下に留意します。

(2) 今後も継続して、アザミウマ類、ヨトウ類、灰色カビ病の防除に努めます。

## 台風対策

今後、台風の接近や上陸が予想されますので天気予報に留意し、事前・事後対策を講じるようにします。

事前には圃場の排水対策、施設等の補修の有無等を確認してください。被害にあった際には、到伏の直しや殺菌剤の散布等速やかに対応してください。

農作物技術情報第7号は9月29日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。

※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。